

創価大学オープンキャンパス (2017年3月20日)

体験 PASCAL 入試

<事前学習課題>

「大学での学び方」 安永 悟 (久留米大学)

(出典)「LTD 話し合い学習法」(安永 悟・須藤 文 著/ナカニシヤ出版)

※著者の許諾を得て掲載しています。

キーワード：大学教育,学習法,記憶,思考

大学に相応しい学び方を皆さんは知っていますか。大学で求められる学び方とは、覚えることを基礎にした思考中心の学び方です。確かな学力の獲得と自己の変化成長をもたらす深い学び方ともいえます。以下、詳しく見ていくことにしましょう。

1. 覚える学習と考える学習

「大学での勉強は答えを見つけることではない。問いを創ることである」という意見を聞いたことがあります。一体、どういうことでしょうか。

「答えを見つける」勉強とは記憶中心の勉強であり、覚える学習です。この典型例が受験勉強です。受験勉強では教科書や参考書に書かれた正解を一つでも多く記憶し、問われたら誰よりも早く思い出す。これが受験勉強の基本原則です。正解に疑いを挟む余地はありません。記憶力の善し悪しが成績と直結します。わたしたちがこれまで慣れ親しんできた学習です。「学習=記憶」と考えている人も多いでしょう。

ところが先の意見では「答えを見つける」勉強すなわち記憶中心の勉強は、大学では相応し

くないと否定しています。「学習=記憶」と思いこんでいた人にとっては一大事です。

一方「問いを創る」勉強とは思考中心の勉強であり、考える学習です。例えば、大学での勉強について先の意見を聞いた学生が「答えを見つけるとは?」「問いを創るとは?」と疑問を感じ、意見の背後に秘められた真意を問い始める。これが考える学習の始まりです。たとえ先生の説明であっても、説明を鵜呑みにするのではなく、少しでも疑問を感じたら、その疑問を大切に、積極的に取り上げ、「なぜ」「どうして」と問い続けることが「問いを創る」勉強です。

考える学習は覚える学習とは比較にならない厳しさがあります。考える学習では他者の説明を鵜呑みにすることは決して許されません。常に自分の言葉に置き換え、自分の言葉で考え、問い続けることが求められます。単に答えを覚えるといった記憶中心の勉強にはない厳しさがあります。

2. 問い続ける学習

とりわけ大切なことが「問い続ける」ことです。より深い理解に向けて問い続けることが考

える学習の神髄です。少しでも疑問を感じたら辞典や辞書で調べる。関連する書物を読む。自分に問い、自分と対話する。そして仲間に関し、仲間と対話する。これらの方法で正答らしきものが見えてきたとしても、果たしてそれは本当に正しい答えなのであろうか、真実であらうかと、常識にとらわれることなく、厳しく問い続ける。さまざまな形で問い続けることが考える学習です。

問い続けることでより深い理解に達したとき、想像を絶する喜びを実感できます。一度この喜びを経験した人は、学ぶ喜びに魅せられ、さらに学び続けたいと思います。大学での「学び」はこうあって欲しいものです。

3. 望ましい学び方

覚える学習と考える学習を対比すると、前者が悪くて後者が良いと判断されがちです。しかし、それは間違いです。大学においても覚える学習は大切な学び方です。外国語を学ぶとき、文法や単語をしっかりと覚えておかないと簡単な会話さえできません。どの分野でも専門内容を検討するためには数多くの基礎知識が必要となります。基礎知識を正しく理解し、記憶しておかなければ高度な専門内容について語れません。覚える学習は考える学習の基礎となる重要な学習です。

大学では、覚える学習を否定しているのではありません。否定しているのは記憶を目的とした学習です。試験対策のためだけに覚えた内容は、多くの場合、試験が終わるとすぐに忘れられます。自分との関わりが薄く、学ぶ価値を見つけにくい内容は機械的に覚えるしかありません。それだけに苦痛であり、やる気が起きませ

ん。結果として、記憶することを目的とした学習は勉強嫌いをつくり出す危険性を常にはらんでいます。本来、学習には語り尽くせないほどの喜びが伴うものです。勉強嫌いを作り出す学習は根本的に間違っています。

望ましい学習は、基礎的な内容を正しく理解し、常に考え、問い続ける学習です。考え、問い続けることにより理解と記憶は必然的に深まります。考える学習では、記憶することを深く意識しなくても、理解の過程で、さほど抵抗もなく自然と覚えられます。このような学び方は学習者にとっては苦痛ではありません。むしろ喜びとなります。そこでは覚える学習と考える学習が有機的に結びつき、力動的に影響し合いながら学習過程が展開します。

4. 考える学習の工夫

大学生には、考え、問い続ける学習が求められています。それではどのように実践すればいいのでしょうか。一例として、自分の言葉で語り、仲間と対話する方法を紹介します。

(1) 自分の言葉で語る方法

考えるとは自分の言葉に翻訳することです。わたしたちは自分の言葉で毎日生活しています。何かを考えるとき、日々の生活で使っている言葉で考えています。例えば分からないことがあると「つまり、……ということかな？」と自分の言葉に置き換えて理解しようとしています。これが考える学習の基本です。

大学では難しい専門用語がたくさん出てきます。専門用語を正しく理解することが学問の基本です。専門用語の説明を読んだり聞いたりしても、直ぐには理解できないかもしれません。そんなとき、その難解な説明を自分が普段使っ

ている言葉に置き換えてみてください。必ずしもすべてを言い換えることはできないかもしれませんが、挑戦してみてください。きっと理解が進みます。自分の言葉で述べ直すことは、それ自体、既に考える学習になっています。

(2) 仲間と対話する方法

人が最も活発に考えているのは仲間と対話しているときだといわれています。一人で本を読んでいるときよりも、人の話を聞いているときよりも、人に話をしているときよりも、何かを書いているときよりも、仲間と話し合っているとき、人の脳は最も活発に働いていることが知られています。

自分では理解できたと思っている内容でも、相手にうまく説明できないという経験はよくあります。相手から分からないといわれれば伝えたい内容を再度吟味し、相手に伝わりやすい方法で説明し直す必要があります。また、仲間との話し合いを通して、新しい他者の視点から考え直すことにより、わたしたちの理解は広がり、深まります。そのとき、わたしたちの頭はフル回転しています。

このように仲間との対話はわたしたちに多くの考える機会を与えてくれます。大学にはさまざまな才能をもった個性豊かな仲間が数多くいます。彼らとの積極的な対話を通して、考える学習を展開してみてください。

5. 変化成長をもたらす学習

学習者に変化成長をもたらすのが本来の学習です。記憶を目的とした学習だけでは大きな変化成長は望めません。学びの結果だけでなく、学びの過程に深く関与し、仲間との対話を通して自分の言葉で考え続ける学習によって、初め

て人は変化成長します。

学ぶとは変化することです。学びにより成長します。変化成長のない学びは学びではありません。学んで成長した自分を発見すると、とても大きな喜びがあります。この喜びが次の学びをさらに推し進めます。考える学習を常に心がけ、学び続けることにより、皆さん一人ひとりが大きく変化成長することを期待しています。

(了)